

| | | | | |
|-----------|--|--|---------|--|
| 法人(事業所)理念 | 子ども同士の関わりを重視し、同じ時代を共に生き抜いていく仲間として、子ども同士が育ち合える場を提供する。 | | | |
| 支援方針 | 子どもが将来日常生活や社会生活を円滑に営めるようになるため、集中力と自己コントロール力を身に付けるとともに、その子ならではの個性を伸ばしていくけるような支援を行う。 | | | |
| 営業時間 | ①平日 9:00~18:00 ②土曜日、学校休業日、長期休暇 8:00~17:00 | 送迎実施の有無 | あり | |
| 健康・生活 | <p>(1)基本的生活習慣の確保 健康状態の維持や改善、基本的生活スキル(睡眠・食事・排泄等)の習得、規則正しい生活リズムの形成を目指す。</p> <p>(2)生活環境を整える 日々の生活の中で様々な遊びを通して学習を進めていく、必要な教材教具や遊具等を準備して子どもが楽しく過ごせるように生活環境を整える。子ども一人ひとりの特性に配慮して、一日のスケジュールを事前に分かりやすく説明したり、自分の物と公共の物との取り扱いを教えたりするなど、子どもが安心して過ごせる環境を用意する。</p> | | | |
| 運動・感覚 | <p>(1)運動能力の向上 ボルダリング、縄跳び、ポッチャ、ドッジボール、鬼ごっこ、野球、サッカー、バスケットボールなどの様々な運動に取り組み、手足の力や体幹を鍛えるなど、体を動かすことが楽しくなり運動することが好きになることを目指す。</p> <p>(2)戸外での活動、遊具を使った活動 様々な体の動きを経験することにより、体の筋肉をバランス良く鍛え、心肺機能や骨の形成など体の発育を促していく。充分に体を動かして思いっきり遊ぶことで体力の向上を図り、夜もしっかりと眠れるようになることで、健全な生活リズムを形成していくことを目指す。また、遊具に登ったり、体を使いつり動かすことで、脳の前頭前野を刺激して脳の発達を促すなど、全体的に良い影響を与えることを視野に入れる。</p> <p>(3)感覚の統合的な活用 指先の巧緻性を高めるために、折り紙やペーパークラフトなどでハサミを使った製作活動を行ったり、レゴブロック、編み物、アイロンビーズなどの子どもの好きな素材を使って集中して取り組める活動を取り入れる。</p> | | | |
| 本人支援 | 認知・行動 | <p>(1)学習の習慣化 学校の宿題を中心とした学習支援を行い、空間・時間・数などの概念習得を目指す。学習支援は一人ひとりの特性に応じて個別に行い、「わかった」という気持ちを実感できるようになることや、学習することが習慣化できるようになることを目指す。 子どもが事業所を利用する時に、自分の名前や到着時間を所定の用紙に記入するようにしておき、普段の生活の中で文字や時間・数字に触れる経験を積み重ねていけるように支援する。</p> <p>(2)右脳への刺激 フラッシュカードを使った右脳学習を行い、カタカナや漢字、地理、語彙力などを楽しく身に付けるように働きかけていく。「覚えるって楽しい」という気持ちの獲得を目指す。</p> <p>(3)プログラミング学習 子ども一人ひとりの特性に配慮し、それぞれが自由な発想でロボットに指示をしたり、レゴで作った車にプログラムを入れて走らせたり、タブレットでゲームを作ったりして、それぞれの興味関心に合わせたカリキュラムでプログラミング学習を行う。自信を持って学習に取り組むことで、成功体験を積み重ねていきながら、自己肯定感や自己効力感を高められるように支援する。</p> | | |
| | 言語・コミュニケーション | <p>(1)受容言語と表出言語の支援 職員からの指示や友だちの話を集中して聞くことが大切であることを伝え、言葉や文字を使って相手の意図を正確に理解できるようになることを目指す。(受容言語の支援) 自分の好きな物や得意なこと、プログラミング学習で製作したプログラム等を皆の前で発表することを通して、自分の考えを適切な言葉で正確に伝えることができるようになることを目指す。朝の会や帰りの会などで司会や書記の役を務めたり、一日の出来事で楽しかったことや嫌だったことなどを発表する機会を作る。(表出言語の支援)</p> <p>(2)人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 集団遊びや集団活動などを体験することを通して、人との関わりを円滑にするために必要となるコミュニケーション能力の向上を図る。帰りの会等において、絵本の読み聞かせなどを行い、言葉の数や想像力の獲得を目指す。</p> | | |
| | 人間関係・社会性 | <p>(1)自己の理解と自己コントロール力向上のための支援 SST(ソーシャルスキルトレーニング)の一環として、「順番交代」「役割」「ルールを守る」「指示に沿った行動をする」など、社会に適応する為に必要となるスキルを身に付けることを目指す。また、「感情に気付く」「感情に名前を付ける」「対処法を考える」など、自分の気持ちのコントロールができるようになることを目指す。</p> <p>(2)一人遊びから共同遊びへの支援 一人遊びから並行遊び、運動的遊び、ルールのある共同遊びへの発展を促していく、社会性の発達を向上させることを目指す。</p> <p>(3)仲間づくりと集団活動への参加支援 集団活動に参加するための手順やルールを事前に伝え、それを理解して積極的に集団活動に参加する体験を通して、スムーズに仲間づくりができるようになることを目指す。</p> <p>(4)事業所内活動・事業所外活動 事業所内活動では、ハロウィン会、クリスマス会、料理会などを行い、季節の行事を経験する場を多く作る。子どもたちが主体となって計画を立て、他の子の意見を取り入れながら相手の気持ちを考えた計画が作れるようになることを目指す。事業所外活動では、社会見学の要素を多く取り入れて様々な場所に出かけていき、その場所に応じたルールを守ることを学びながら、興味や関心の幅を広げていくことを目指す。</p> | | |
| 家族支援 | 困っている保護者の思いを汲み取り、課題解決に向けて一緒に考える場として家族支援を実施し、自信を持って育児に取り組めるように支援する。また、ペアレントトレーニングとして保護者が子育てについて学習する機会を作り、保護者同士の交流の場としても活かしていく。 | | 移行支援 | 小学校等と日常的に連携する体制を整えていき、宿題や行事等の情報の共有化を図る。必要に応じて、保護者の意向を確認しながら、事業所での状況を伝える等、三者の連携強化を図る。 |
| 地域支援・地域連携 | 幼稚園や小学校、相談支援専門員との連携を図りながら、子どものライフステージや家庭の状況に応じた切れ目のない一貫した支援を提供していく。 | | 職員の質の向上 | 職員の資質の向上を図るため、定期的に専門の講師による研修を行う。また、定期的に職員会議を行い、子どもの現状を分析し共通理解をした上で、統一した支援に当たる。 |
| 主な行事等 | ○事業所内活動(料理会、プール、集団運動遊び、科学遊び、プログラミング、夏祭り、ハロウィン会、クリスマス会) ○事業所外活動(町探検、科学館、防災センター、お買い物学習、トランボリン、交通児童遊園、地域の公園) | | | |